

沖縄民医連2017平和を守るたたかい

するルか倍た平込非 たも て除よま抗も新た議りが223 6 提全た縄
。た沖ら政た和み暴沖の、熊い行るす議断基。行非参加人月起日た民沖
め縄た権かと行力縄の沖本す。が力、動さ建野を力し、（当県連から8名）にか受民い連民
にのたのいい動・の問題の連。激的機がせ設古行の、（当県連から8名）にか受民い連民
力運かつ暴参ち中抵間と位置7 さ市隊わう何はてりこれまで 全 国 4 も さ を り
を動つをいる真し、もし座もつけを月 増のどて連し今まみで 全 国 4 も さ を り
つをく強し化才正、もし座もつけを月 増のどて連し今まみで 全 国 4 も さ を り
ますし面安るたりに、分降 し排にい日て、し抗通

参加者の感想より

8/17（木）に熊本からの第一陣として、平和を守るたたかいに連帯する支援に参加させて頂きました。沖縄協同病院に朝から集合し、事前にレクチャーを受けて車で約1時間かけて辺野古にあるキャンプハンセンのゲート前に向かいました。その日は午前中は基地への搬入作業は無く、お昼過ぎに搬入作業があるとの情報が入り昼食をとった後にみんなで少し歩いた先にある搬入ゲート前へと向かい座り込みました。8月ということでものすごい暑さと緊張感の中で、搬入トラックを座り込んで待っていると、機動隊が40名ほど突然現れて搬入ゲート前に座っている反対派の人々を次々に無理矢理どこかへ連れて行きました。私たちは事前につかまらないように道路の反対側に避難していたので大丈夫でしたが、その光景はとても現実だとは思えず、国民を守るはずの警察が国民にこんなひどい事をするのか・・・と驚き、言葉もありませんでした。反対派の人々を全員移動させた後、待っていた機材搬入のトラックが何十台と基地へ入っていきました。ここではこのようなことが毎日繰り返されているという現実。私たちはしっかり考える必要があると思います。

これまで何度か沖縄には行ったところがあり平和学習もさせて頂きましたが、今回はゲート前での激しいやり取りなど今までにない沖縄の現状を目の当たりにし、また映画で、米軍基地があるがゆえに苦しめられて続けてきた沖縄の歴史も見ることができ、沖縄の基地問題の奥深さを感じました。沖縄に日本全土にある米軍基地の約70%が集中していることを私たちは無視してはいけません。日本政府やアメリカだけでなく、私たちの無知、無関心が沖縄の人々を苦しめているのだと今回強く感じました。 県連事務局 井芹史乃

沖縄の民意を無視し、辺野古新基地埋め立てが粛々とすすめられています。その言葉とは裏腹に、辺野古ゲート前では機動隊と100名を越す反対住民の激しい対立が毎日のように続いています。その様子は以前訪れたときよりも激しさを増していました。ゲート前から強制的に排除された住民は機動隊バスのマフラー横に囲まれ排気ガスを浴びながら30分～長いときは1時間30分も封じられます。この対応に抗議すると沖縄県警警備局長は、それがイヤなら阻止行動に参加しなければいい、と発言したといひます。反対する人間には健康を害する対応をも辞さない姿勢を堂々と述べています。こんな権力の横暴を許さず日本から基地はいらない！の声をあげましょう！ 県連事務局 広瀬良太



県連ニュース

発行者：木原 望

TEL：096-387-2826

FAX：096-381-5442

8/31（木）辺野古支援「平和を守るたたかい」に参加させて頂きました。

辺野古は、海や緑の自然にあふれた場所でした。そのような中、辺野古キャンプシュワブゲート前では重々しい空気が流れていました。工事車両が基地内に入ると座り込みをする人々を機動隊が強制的にごぼう抜きにしている場面を見て、何とも言えない気持ちになり涙があふれてきました。しかし、「怖い」というより抗議する方々の明るさと力強さを感じました。そして、「辺野古の海を守りたい」という思いで、毎日、毎日、あきらめない抗議行動が行われている現状、やはり、現地に行って、「見て、感じるのが大事なんだ」と思いました。説明していただいた瀬長氏（瀬長亀次郎氏の孫）より全国からの支援が励みになりますと呼びかけられました。私も、これから、微力ながら一緒に支援をしていけたらと思います。

平和クリニック 沖田春美